

岡山県感染症週報 2018年 第17週 (4月23日～4月29日)

◆2018年 第17週 (4/23～4/29) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第16週 3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 3名 (30代 女 1名、40代 男 1名、60代 女 1名)

第17週 2類感染症 結核 1名 (乳児 男)

5類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名 (70代 男)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

○感染性胃腸炎は、県全体で 429 名 (定点あたり 7.31 → 7.94 人) の報告があり、前週から増加しました。

○A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 115 名 (定点あたり 1.78 → 2.13 人) の報告があり、前週から増加しました。

1. **感染性胃腸炎**は、県全体で 429 名 (定点あたり 7.31 → 7.94 人) の報告があり、前週から増加しました。地域別では、備前地域 (11.30 人)、備北地域 (11.25 人)、美作地域 (8.50 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。

冬から春にかけての感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものが多いとされています。手洗いの徹底や、下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めましょう。

2. **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で 115 名 (定点あたり 1.78 → 2.13 人) の報告があり、前週から増加しました。地域別では、岡山市 (3.14 人)、倉敷市 (2.91 人)、美作地域 (2.33 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、就学前から学童期にかけての小児に多い感染症で、学校などで集団感染することもあります。患者との濃厚接触を避け、手洗い・うがいを行うなど、感染予防に努めましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★★★
感染性胃腸炎		★★★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	ヘルパンギーナ		★
流行性耳下腺炎		★	急性出血性結膜炎		★
流行性角結膜炎		★	細菌性髄膜炎		
無菌性髄膜炎			マイコプラズマ肺炎		
クラミジア肺炎			感染性胃腸炎(ロタウイルス)		★

【記号の説明】 前週からの推移： ：大幅な増加 ：増加 ：ほぼ増減なし ：大幅な減少 ：減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。(発生数が多いことを示すものではありません。)

空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

注意喚起情報～沖縄県で麻疹感染拡大～ これから旅行される方、また旅行された方はご注意を!

※沖縄県で麻疹（はしか）の感染患者が増えています！

沖縄県では、平成30年3月下旬に台湾からの旅行者で麻疹感染が確認されてから、県内各地への感染が広がっており、5月8日時点での麻疹感染者数は92名にのぼっています。加えて、他県での感染の広がりも報告されています。

3月17日以降に沖縄県に旅行された方は、麻疹ウイルスの暴露を受けた可能性があります。沖縄県から移動した後3週間以内に発熱を認めた場合は、あらかじめ医療機関に連絡し、沖縄県での滞在歴、ウイルス暴露の可能性、予防接種歴等を伝え、医療機関からの指示に従うようにしてください。

今後沖縄県に旅行、滞在を計画されている方は、沖縄県からの注意情報「[沖縄県へのご旅行・ご出張を予定されている皆様へ](#)」（沖縄県保健医療部地域保健課HP）等をご覧ください。事前に十分に安全性についてご確認の上、必要であれば予防接種をご検討ください。

特に麻疹に感染すると重症化しやすい年齢である小学校入学前までのお子さんについては、MRワクチンの予防接種の状況を、今一度ご確認ください。（この年代では定期接種2回となっています。母子手帳を確認の上、接種が行われていない場合は、MRワクチンを接種してください。）

「麻疹（はしか）」とは

麻疹ウイルスによっておこる感染症で、感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れ、2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎を発症し、極めて重篤となることがあります。感染経路は空気（飛沫核）感染のほか、飛沫や接触感染など様々です。免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症します。感染力はきわめて強く、麻疹の免疫がない集団に1人の発症者がいたとすると、12～14人の人が感染するとされています（インフルエンザでは1～2人）。予防接種が唯一の有効な感染予防法です。

[沖縄県保健医療部地域保健課ホームページ](#)

[麻疹とは（国立感染症研究所）](#)

[麻疹について（厚生労働省）](#)

ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

これからの季節、レジャーや山菜採りなど、野外で活動する機会が増えます

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られています。これらのダニの中には、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)や日本紅斑熱、つつが虫病などを引き起こす病原体を保有しているものもあります。春から秋(3～11月)にかけて、ダニの活動が活発になります。野外で活動する際は、ダニに咬まれないための予防対策をしましょう。



フタトゲチマダニ
岡山県環境保健センター

【予防のポイント】

- ◎草むらや藪などダニが多く生息する場所に入る時は、腕、足、首など肌の露出を少なくしましょう。
- ◎服の上や肌の露出部分に、虫除け剤(ディートやイカリジンを含むもの)を噴霧しましょう。(虫除け剤の子供への使用は、添付されている使用上の注意をよく読んでください。)
- ◎地面に直接寝転んだり、腰を下ろしたり、服を置いたりしないようにしましょう。
- ◎帰宅後は、上着や作業着を家の中に持ち込まないようにしましょう。
- ◎野外活動後は、すぐに入浴し、頭や体をよく洗って、新しい服に着替えましょう。入浴やシャワーの時には、ダニが肌についていないかチェックしてください。
- ◎脱いだ衣類は、すぐに洗濯するか、ナイロン袋に入れて口を縛っておきましょう。
- ◎ペットにもダニがつかないように、ダニ除け剤などで予防しましょう。

【マダニがついていたとき】 ～マダニに咬まれても、痛みやかゆみは、ほとんど感じません～

- ◎容易に取り除くことができる場合(2、3日以内)は、すぐに取り除いてください。その後、2週間程度は、体調の変化に注意してください。なお、取り除いたマダニは、プラスチック容器等に保存しておいてください。
- ◎容易に取り除くことができない場合(数日以降)は、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切な処置をしてもらってください。無理に取り除くと、口器が皮膚に残って、化膿するなど治癒が遅れる場合があります。

【症状がでたとき】

- ◎野外活動の後、数日から2週間程度のうちに発熱・発しん等の症状が認められた場合、速やかに医療機関を受診してください。その際、野山や草むらなどに立ち入る機会があったことを伝えてください。また、取り除いたマダニを保存している場合は、医療機関を受診する際に持参してください。

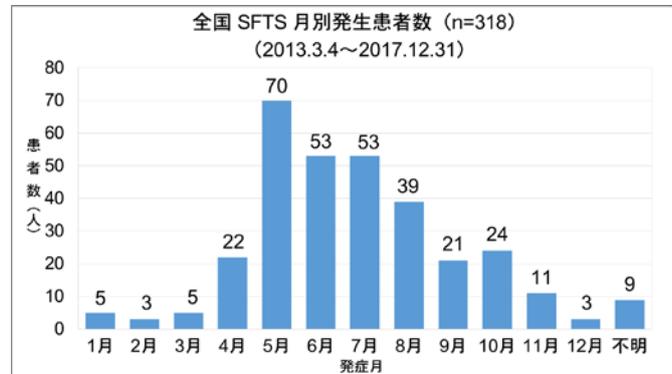
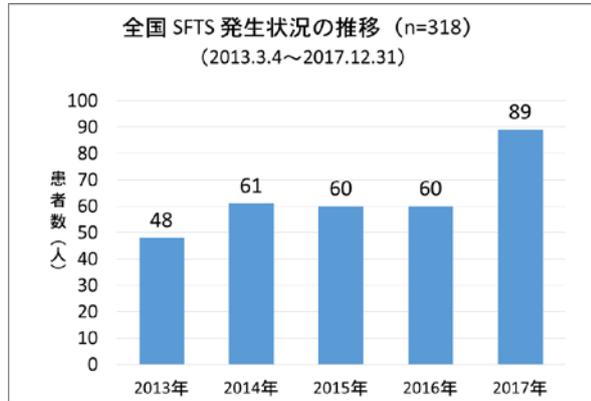
★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

- ⇒ [重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)に関するQ&A](#) (厚生労働省)
- ⇒ [マダニ対策、今できること](#) (国立感染症研究所)

＜昨年までのダニ媒介感染症の全国および岡山県での発生状況について＞

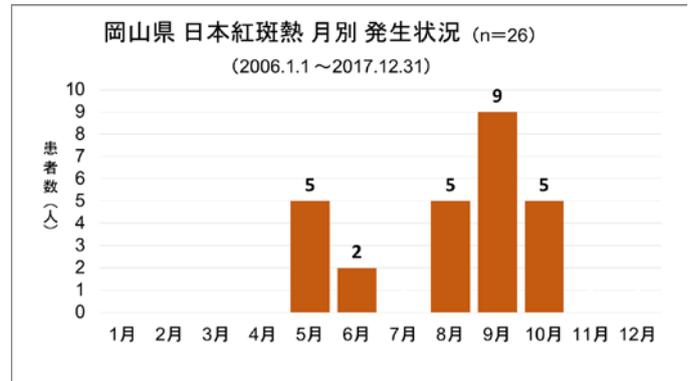
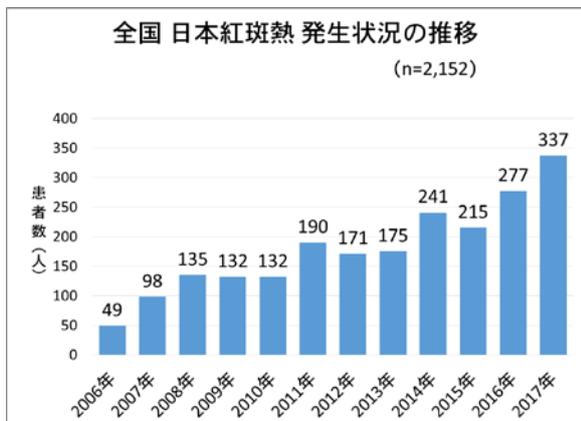
☆SFTS（重症熱性血小板減少症候群）

全国では、例年 60 名前後の報告がありますが、昨年（2017 年）は、89 名と患者の増加がみられました。時期的には、4 月から患者数が増え始め、5 月でピークとなり、その後患者数は減っていく傾向にあります。岡山県でも、過去 5 年間の状況（患者数 5 名）をみると、5 月から 7 月の間に患者が発生しています。



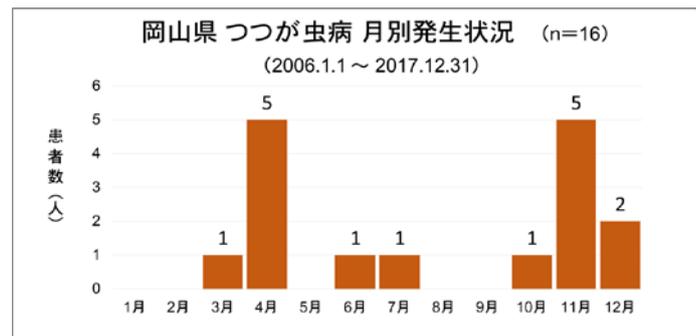
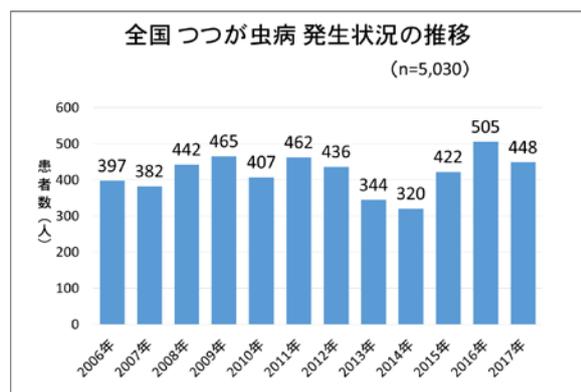
☆日本紅斑熱

全国の発生状況を見ると、年々患者数が増加しています。岡山県では、例年 3 名前後で推移していましたが、昨年は 7 名の報告がありました。月別発生状況では、5 月から 6 月と 8 月から 10 月にかけて、患者数が増加する傾向があります。



☆つつが虫病

全国の発生状況を見ると、患者数は近年横ばいです。岡山県の月別発生状況では、4 月と 11 月に患者数が増加する傾向があります。



保健所別報告患者数 2018年 17週(定点把握)

(2018/04/23～2018/04/29)

2018年5月2日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	47	0.56	3	0.14	8	0.50	7	0.47	11	0.92	7	1.17	6	2.00	5	0.50
RSウイルス感染症	3	0.06	-	-	1	0.09	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	12	0.22	1	0.07	2	0.18	-	-	3	0.43	-	-	2	1.00	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	115	2.13	44	3.14	32	2.91	15	1.50	5	0.71	5	1.25	-	-	14	2.33
感染性胃腸炎	429	7.94	113	8.07	68	6.18	113	11.30	30	4.29	45	11.25	9	4.50	51	8.50
水痘	31	0.57	10	0.71	9	0.82	3	0.30	8	1.14	-	-	-	-	1	0.17
手足口病	5	0.09	1	0.07	4	0.36	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	7	0.13	3	0.21	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	3	0.50
突発性発疹	25	0.46	16	1.14	4	0.36	2	0.20	1	0.14	1	0.25	-	-	1	0.17
ヘルパンギーナ	3	0.06	-	-	2	0.18	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	5	0.09	4	0.29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	0.42	-	-	4	1.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1.00	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2018年 17週(発生レベル設定疾患)

(2018/04/23～2018/04/29)

2018年5月2日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	47	0.56	3	0.14	8	0.50	7	0.47	11	0.92	7	1.17	6	2.00	5	0.50
咽頭結膜熱	12	0.22	1	0.07	2	0.18	-	-	3	0.43	-	-	2	1.00	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	115	2.13	44	3.14	32	2.91	15	1.50	5	0.71	5	1.25	-	-	14	2.33
感染性胃腸炎	429	7.94	113	8.07	68	6.18	113	11.30	30	4.29	45	11.25	9	4.50	51	8.50
水痘	31	0.57	10	0.71	9	0.82	3	0.30	8	1.14	-	-	-	-	1	0.17
手足口病	5	0.09	1	0.07	4	0.36	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	7	0.13	3	0.21	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	3	0.50
ヘルパンギーナ	3	0.06	-	-	2	0.18	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	5	0.09	4	0.29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	0.42	-	-	4	1.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2018年 第17週 2018/04/23～2018/04/29)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	47	-	2	-	-	5	3	-	3	-	-	1	7	2	4	7	5	2	3	1	2

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	3	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	12	1	-	4	2	3	-	-	-	1	1	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	115	-	5	6	5	11	16	17	14	8	9	6	11	-	7
感染性胃腸炎	429	3	32	65	36	32	38	36	18	15	17	19	43	14	61
水痘	31	-	2	-	-	1	5	4	8	1	6	1	3	-	-
手足口病	5	-	-	2	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
伝染性紅斑	7	-	3	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	25	1	8	14	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	3	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	5	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	2	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	1	-	1

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

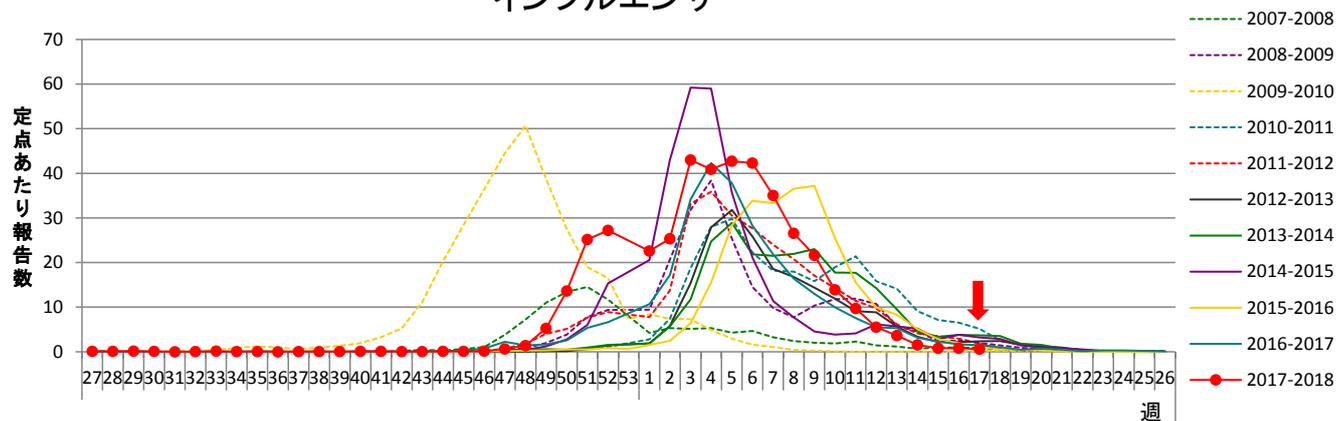
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

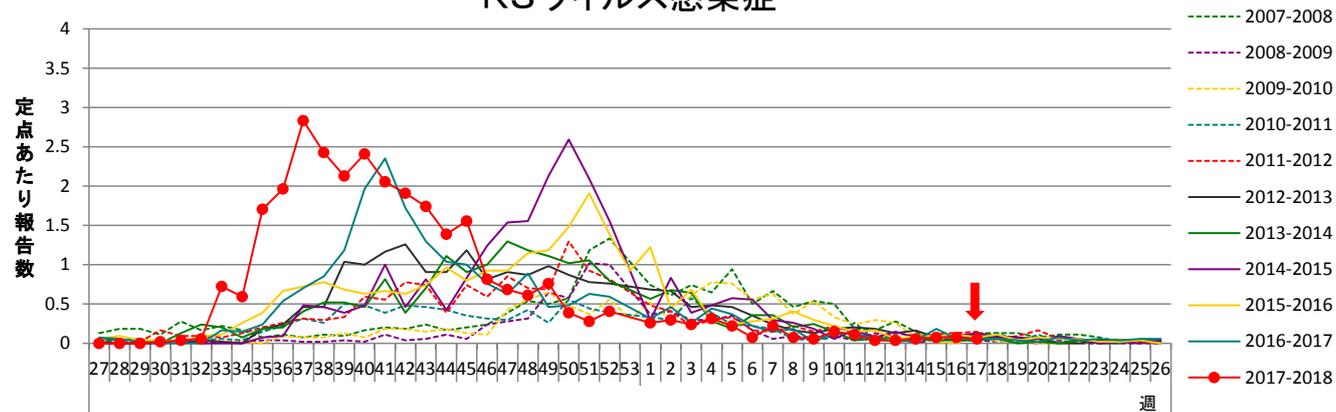
2018年 17週

分類	疾病名	2018		2017	疾病名	2018		2017	疾病名	2018		2017
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	1	96	370	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	2	細菌性赤痢	-	-	3	腸管出血性大腸菌感染症	-	4	70
	腸チフス	-	1	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	-	5
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサナル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	1	1
	デング熱	-	-	2	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	7
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	9	30
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	7	22	ウイルス性肝炎	-	-	12	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	1	7
急性脳炎		-	1	8	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	3
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		-	8	9	後天性免疫不全症候群	-	4	22	ジアルジア症	-	-	-
侵襲性インフルエンザ菌感染症		-	-	1	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	1	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	18	36
水痘(入院例に限る。)		-	1	6	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	46	172
播種性クリプトコックス症		-	1	1	破傷風	-	-	-	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		-	-	7	百日咳	-	50	-	風しん	-	-	-
麻しん		-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	-

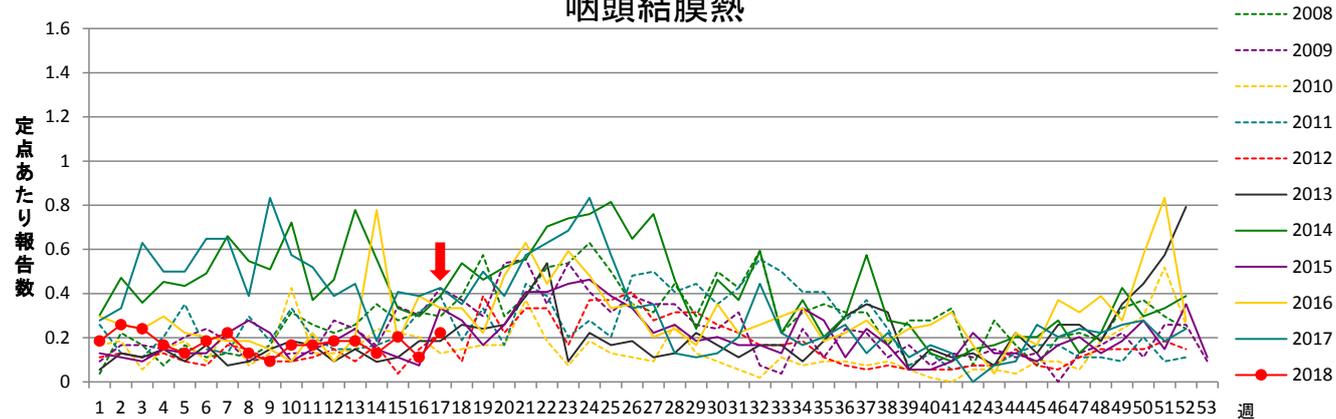
インフルエンザ



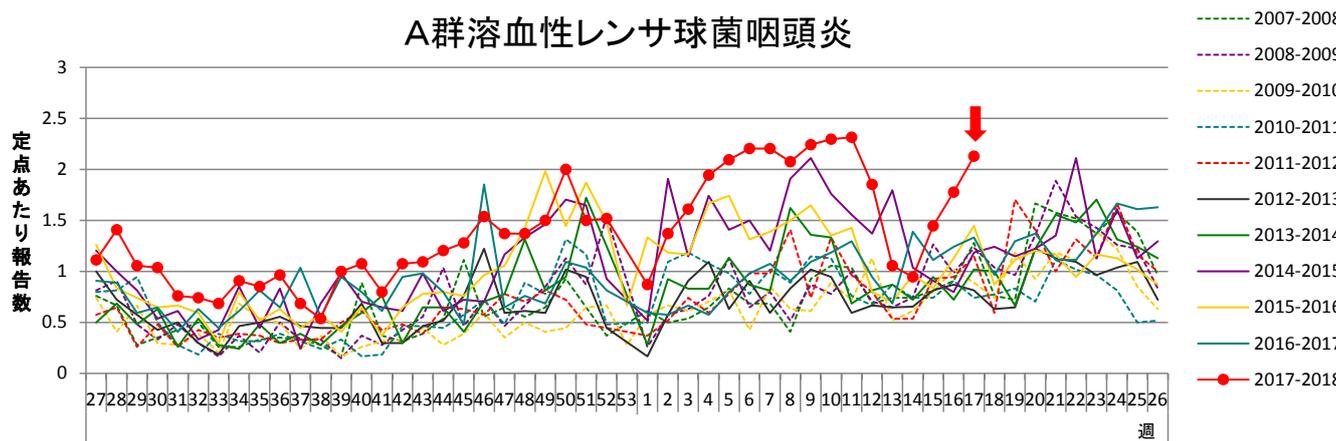
RSウイルス感染症



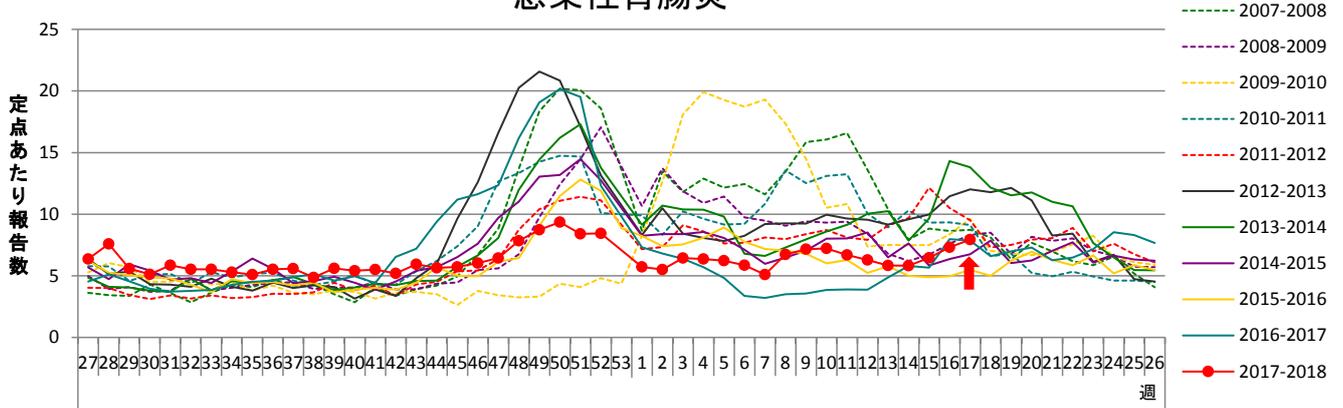
咽頭結膜熱



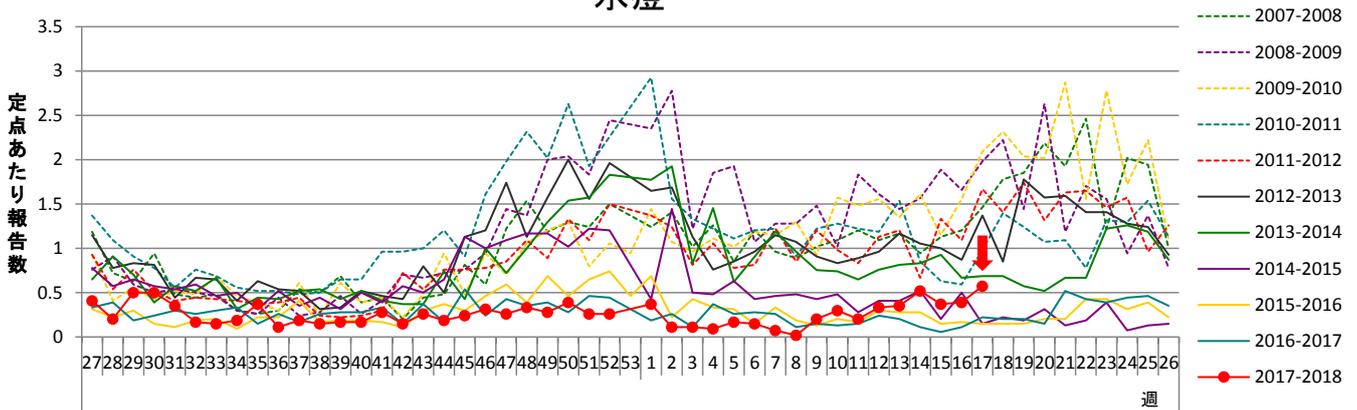
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



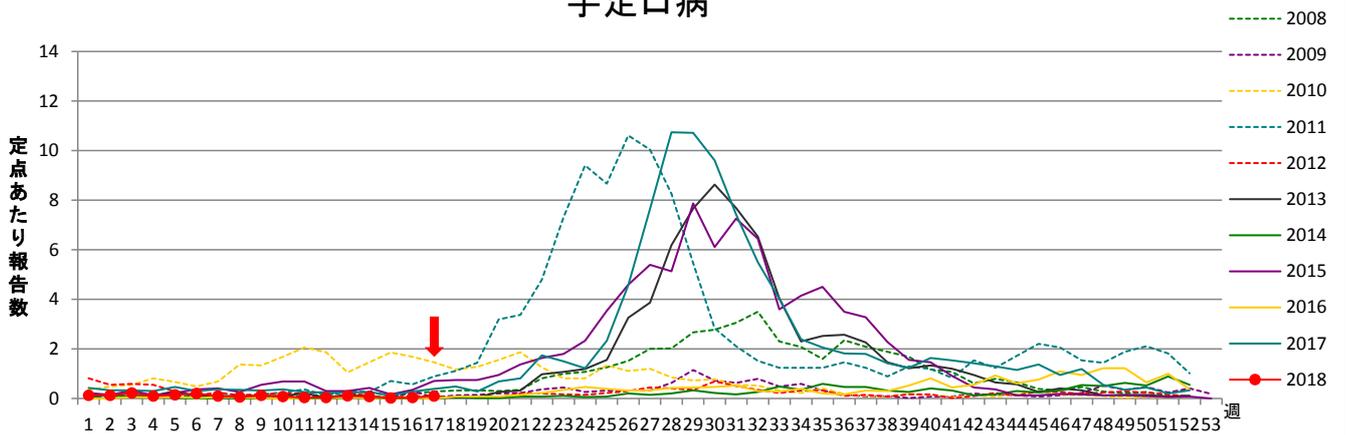
感染性胃腸炎



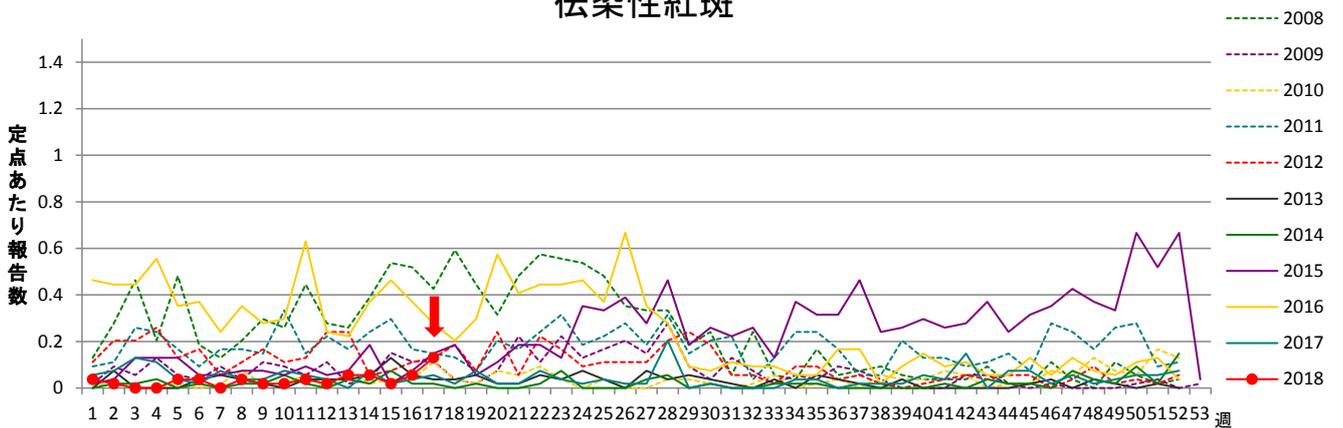
水痘



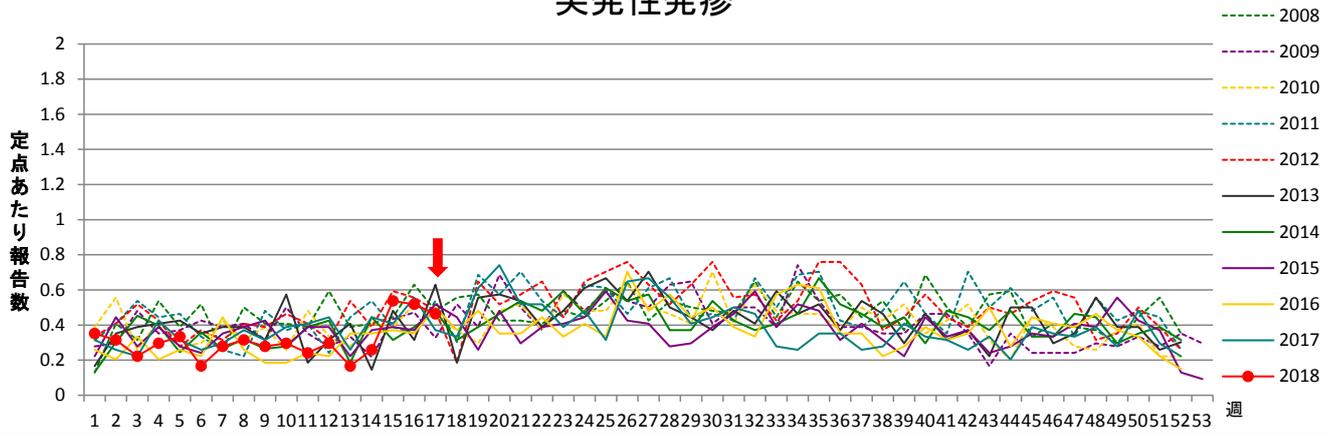
手足口病



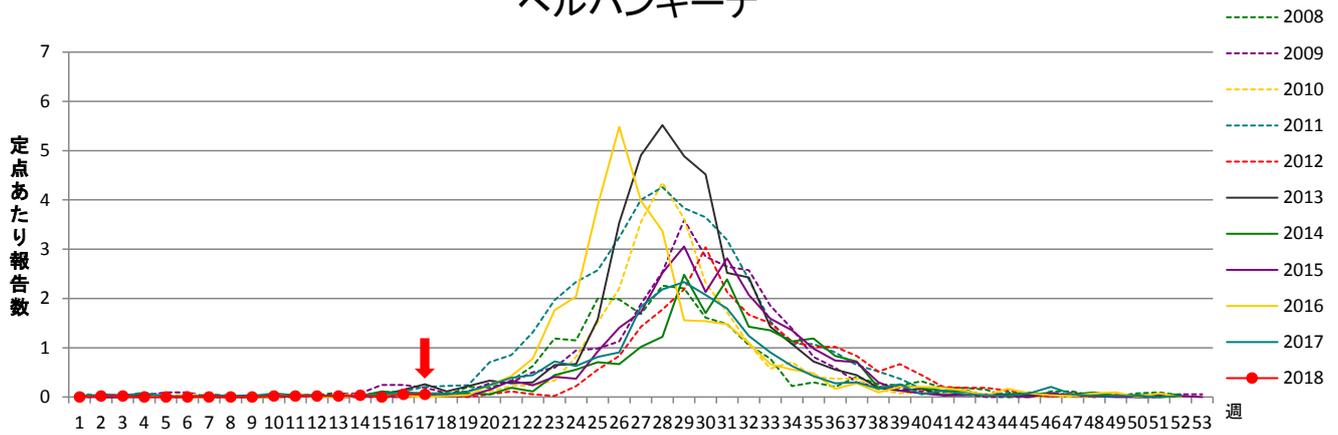
伝染性紅斑



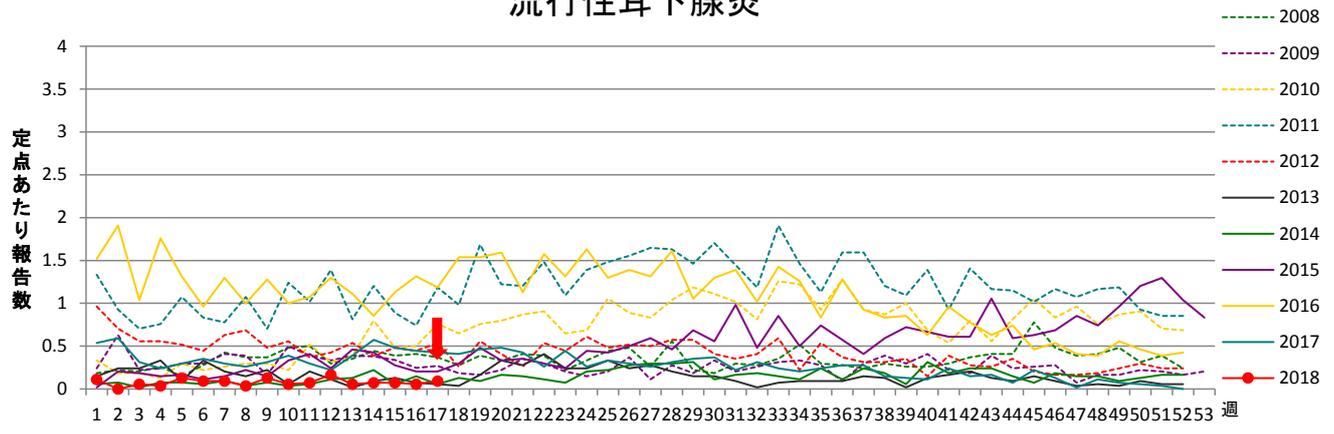
突発性発疹



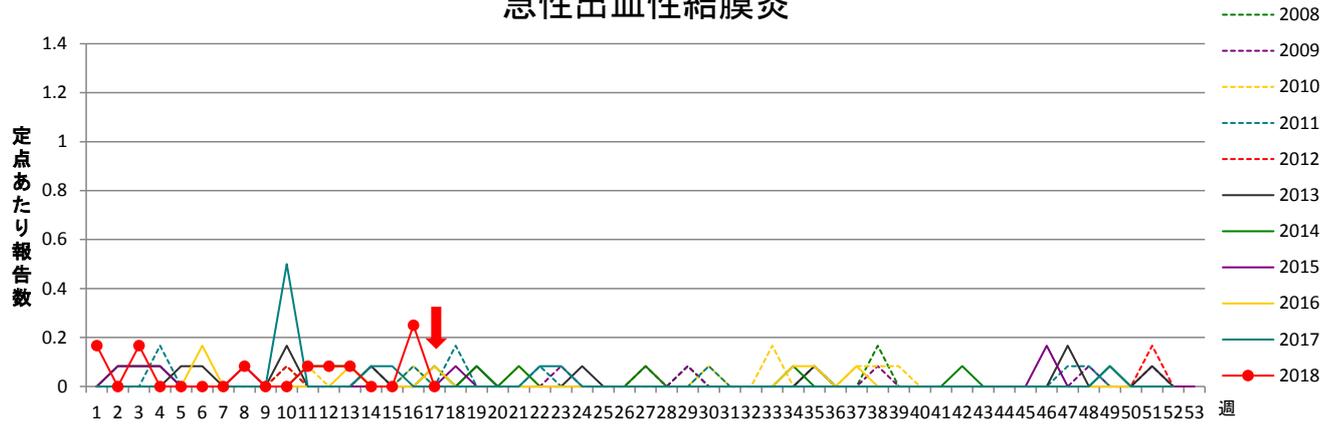
ヘルパンギーナ



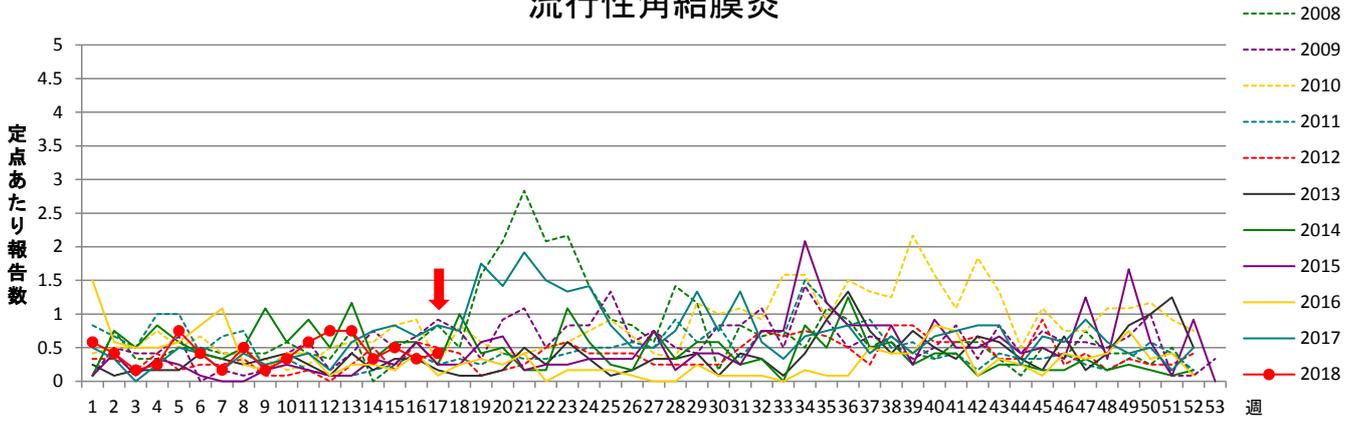
流行性耳下腺炎



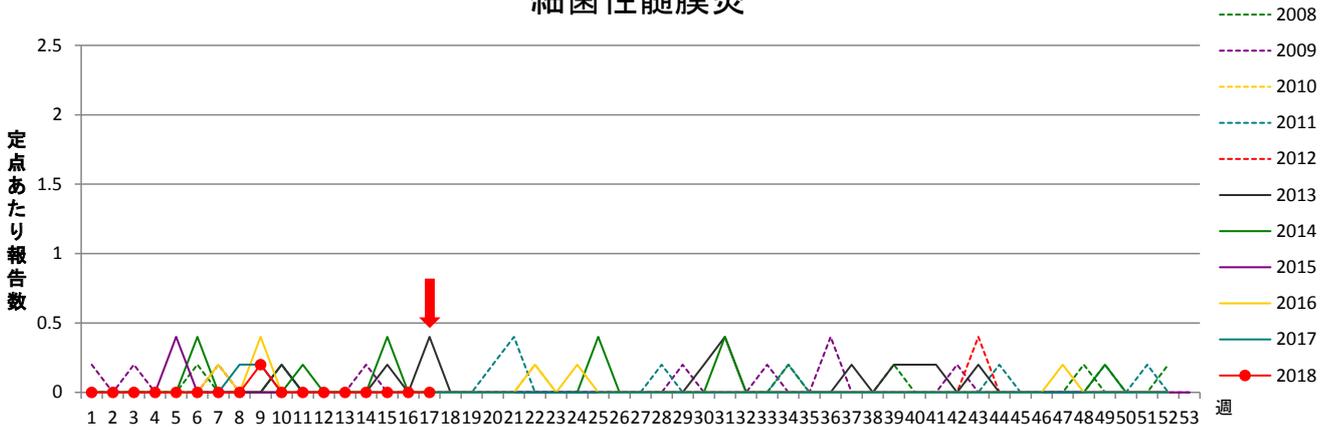
急性出血性結膜炎



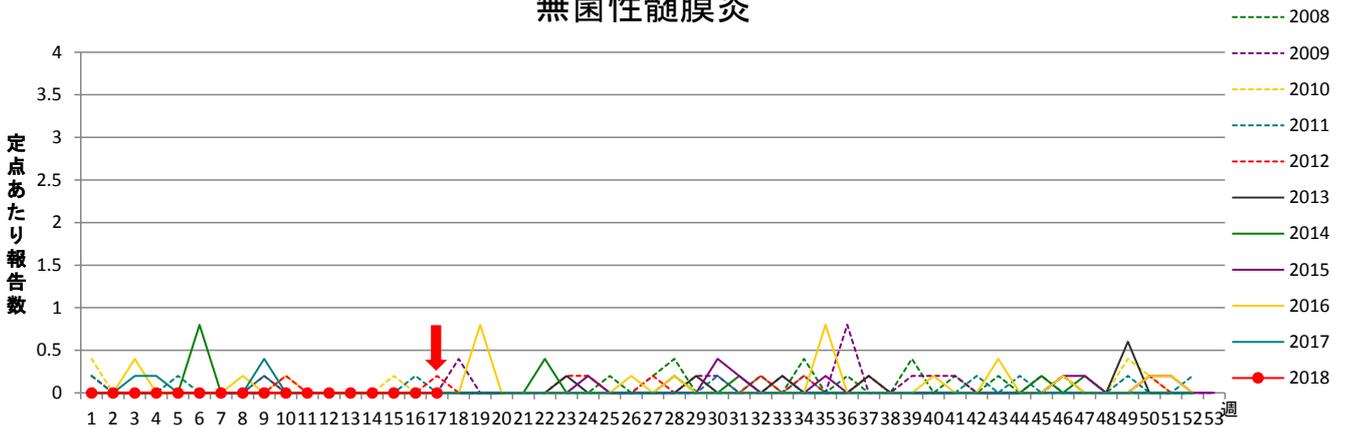
流行性角結膜炎



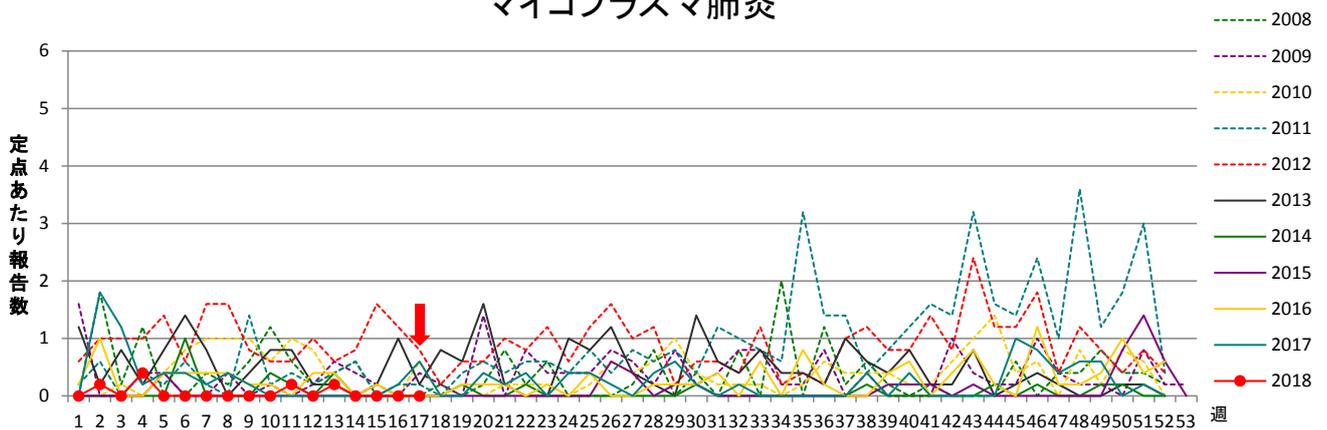
細菌性髄膜炎



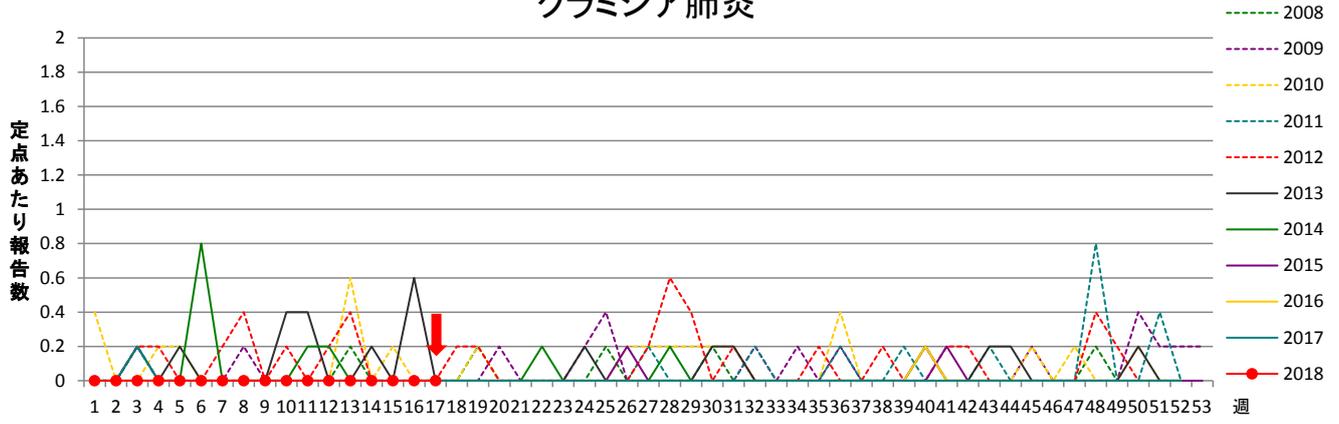
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

